

# Enterprise Cluster マスター・ツール キット B.01.06 リリースノート

第2版



i n v e n t

**Manufacturing Part Number: B5139-90040**

**2001年9月**

Printed in U.S.A.

---

## Copyright

(c) Copyright 2001 Hewlett-Packard Company

(c) Copyright 2001 日本ヒューレット・パッカー株式会社

Restricted Rights Legend.

Use, duplication or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c) (1) (ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.227-7013 for DOD agencies, and subparagraphs (c) (1) and (c) (2) of the Commercial Computer Software Restricted Rights clause at FAR 52.227-19 for other agencies.

HEWLETT-PACKARD COMPANY

3000 Hanover Street

Palo Alto, California 94304 U.S.A.

日本ヒューレット・パッカー株式会社

〒 168-0072 東京都杉並区高井戸東 3 丁目 29 番 21 号

TEL 03-3331-6111 (大代表)

---

## 原典

本書は『*Enterprise Cluster Master Toolkit Version B.01.06 Release Notes*』（HP Part No. B5139-90039）を翻訳したものです。



---

## 納入後の保証について

- 保証の期間は、ご購入時に当社よりお出しした見積書に記載された期間とします。保証サービスは、当社の定める休日を除く月曜日から金曜日までの、午前 8 時 45 分から午後 5 時 30 分の範囲で無料で行います。当社で定めたシステム製品については出張修理を行い、その他の製品については当社にご返却いただいた上での引取り修理となります。当社が定める地域以外における出張修理対象製品の修理は、保証期間中においても技術者派遣費が有料となります。
- ソフトウェア製品の保証は上記にかかわらず、下記に定める範囲とさせていただきます。
  - ソフトウェア製品およびマニュアルは当社が供給した媒体物の破損、資料の落丁およびプログラム・インストラクションが実行できない場合のみ保証いたします。
  - バグおよび前記以外の問題の解決は、別に締結するソフトウェア・サポート契約に基づいて実施されます。
- 次のような場合には、保証期間内でも修理が有料となります。
  - 取扱説明書等に記載されている保証対象外部品の故障の場合。
  - 当社が供給していないソフトウェア、ハードウェア、または補用品の使用による故障の場合。
  - お客様の不適當または不十分な保守による故障の場合。
  - 当社が認めていない改造、酷使、誤使用または誤操作による故障の場合。
  - 納入後の移設が不適當であったための故障または損傷の場合。
  - 指定外の電源（電圧、周波数）使用または電源の異常による故障の場合。
  - 当社が定めた設置場所基準に適合しない場所での使用、および設置場所の不適當な保守による故障の場合。
  - 火災、地震、風水害、落雷、騒動、暴動、戦争行為、放射能汚染、およびその他天災地変等の不可抗力的事故による故障の場合。
- 当社で取り扱う製品は、ご需要先の特定目的に関する整合性の保証はいたしかねます。また、そこから生じる直接的、間接的損害に対しても責任を負いかねます。
- 当社で取り扱う製品を組み込みあるいは転売される場合は、最終需要先における直接的、間接的損害に対しては責任を負いかねます。
- 製品の保守、修理用部品の供給期間は、その製品の製造中止後 5 年間とさせていただきます。

本製品の修理については取扱説明書に記載されている最寄の事業所へお問い合わせください

さい。

---

# 1 Enterprise Cluster マスター・ツール キット B.01.06 リリースノート

## はじめに

Enterprise Cluster マスター・ツールキットには、ServiceGuard パッケージを HP Domain Internet サーバ、または他社製データベース・マネージメント・システム用に構成するためのテンプレートやスクリプトが含まれています。これらのツールはハイ・アベイラビリティを実現するためのツールであり、HP-UX 10.20、11.0、および 11i 上でリリースされています。

このマスター・ツールキットには、特定の製品を対象とした以下のツールキットが含まれています。

- ミッション・クリティカルな環境全体の状態を監視する HA Foundation Monitor ツールキット
- HA インターネット・ツールキット
- Oracle、Informix、Sybase、Progress の各データベース・マネージメント・システムに使用するデータベース・ツールキット

---

## このバージョンの概要

バージョン B.01.06 には、ドキュメントのマイナーな修正が含まれています。

本バージョンより、以下のプロダクト・ツールキットがお使いいただけます。

- HA Foundation Monitor Toolkit

このツールキットを使って、ミッション・クリティカルな環境の状態を監視できます。このツールキットにより、当社サポート・エンジニアは、クラスター・ノード、ネットワーク・コンポーネント、パッケージの各領域内のクラスターの可用性を容易に維持管理できます。上記の領域内でイベントが発生した場合は、クラスターの可用性に関するレポートが夜間に作成されます。

このツールキットについて説明するホワイト・ペーパー “Installing and Configuring the Foundation Monitor Toolkit” は、次のドキュメント関連の Web サイトから入手できます。

<http://docs.hp.com/hpux/ha>

- HA インターネット・ツールキット

注記：これらのツールキットにより、現在お使いのインターネット・サーバ・ソフトウェアを *ServiceGuard* パッケージとして実行できるようになります。

各ツールキットには、サンプル・スクリプトとパッケージ構成ファイル、パッケージをカスタマイズする方法を説明した README ファイルが含まれています。また Domain サーバの以下のコンポーネントについて、それぞれツールキットが用意されています。

- FastTrack サーバ
- Enterprise サーバ
- Enterprise サーバ・プロ
- Proxy サーバ
- Directory サーバ
- Messaging サーバ
- Collabra サーバ
- Calendar サーバ

上記の製品に関する最新の変更、確認されている問題とその回避策については、『*HP Domain Release Notes on HP-UX 10.20*』(J1582-90112) または 『*HP Domain Release Notes on HP-UX 11.0*』(J1582-90128) をご覧ください。

- データベース・ツールキット

これらのツールキットにより、お使いのデータベース・ソフトウェアに合わせて *ServiceGuard* パッケージを簡単にセットアップできます。各ツールキットには、サ

## このバージョンの概要

ンプル・スクリプトとパッケージ構成ファイル、パッケージをカスタマイズする方法を説明した README ファイルが含まれています。また以下のデータベース製品のそれぞれについてツールキットが用意されています。

- Informix
- Oracle
- Oracle 8i の Oracle Standby Database
- Progress
- Sybase

本リリースでは、マイナーな変更と強化が行われています。

## 互換性に関する情報とインストールのための要件

### 互換性

Enterprise Cluster マスター・ツールキットは、HP-UX オペレーティング・システムに MC/ServiceGuard (B3935CA または B3935DA) または ServiceGuard OPS Edition (B5161DA または B5161EA。従来の名称は MC/LockManager) のどちらかがインストールされていることを前提としています。

次の表は、Foundation Monitor に関してマスター・ツールキットがサポートする ServiceGuard および ServiceGuard OPS Edition のバージョンの一覧です。

表 1-1 ServiceGuard および HP-UX との Foundation Monitor の互換性

Foundation Monitor ツールキットのバージョン	HP-UX のバージョン	ServiceGuard のバージョン	ServiceGuard OPS Edition のバージョン
B.01.47	HP-UX 10.20	A.10.10 以降	A.10.07.01 以降
B.01.47	HP-UX 11.0	A.11.01 以降	A.11.01 以降
B.01.47	HP-UX 11i	A.11.09 以降	A.11.09 以降

次の表は、データベースおよびインターネット・ツールキットに関してマスター・ツールキットがサポートする MC/ServiceGuard および ServiceGuard OPS Edition のバージョンの一覧です。

表 1-2 MC/ServiceGuard および ServiceGuard OPS Edition のデータベースおよびインターネット・ツールキット互換性

マスター・ツールキットのバージョン	HP-UX のバージョン	ServiceGuard のバージョン	ServiceGuard OPS Edition のバージョン
B.01.04	HP-UX 10.20	A.10.10 以降	A.10.07.01 以降
B.01.04	HP-UX 11.0	A.11.01 以降	A.11.01 以降
B.01.04	HP-UX 11i	A.11.09 以降	A.11.09 以降
B.01.06	HP-UX 11.0	A.11.12 以降	A.11.12 以降
B.01.06	HP-UX 11i	A.11.09 以降	A.11.09 以降

次の表は、マスター・ツールキットがサポートするデータベースおよびインターネット・サーバ・ソフトウェア製品のバージョンの一覧です。

表 1-3 インターネット・サーバおよびデータベースのスクリプト互換性

インターネット・サーバまたはデータベース	バージョン (swlist の出力に表示)	ツールキットのバージョン (“what” 文字列)
FastTrack サーバ	B.03.01.05	B.01.02
Enterprise サーバ	B.03.06.00	B.01.02
Enterprise サーバ・プロ	B.03.05.04	B.01.02
Proxy サーバ	B.03.05.04	B.01.02
Directory サーバ	B.03.01.03	B.01.02
Messaging サーバ	B.03.05.04	B.01.02
Collabra サーバ	B.03.05.01	B.01.02
Calendar サーバ	B.03.05.02	B.01.02
Informix	全バージョン	A.10.11
Oracle	7.3.x, 8.0.x, 8.1.x	B.01.02
Oracle Standby Database	B.01.03	B.01.03
Sybase	12.0	B.01.02
Progress	7.3.A	A.10.11

## インストール

Enterprise Cluster Master Toolkit は、Mission Critical Operating Environment をインストールしたときにシステムにインストールされます。個々のツールキットの保存場所は、以下の通りです。

### Foundation Monitor ツールキットの保存場所

Foundation Monitor ツールキットは以下のディレクトリにあります。

表 1-4 ツールキットの保存ディレクトリのパス名

ツールキット	保存ディレクトリのパス名
HA Foundation Monitor	/opt/cmcluster/toolkit/foundation

ツールキットに付属の `readme.pdf` ファイルの説明に従ってください。

### インターネット・ツールキットの保存場所

インターネット・ツールキットは以下のディレクトリにあります。

表 1-5 インターネット・ツールキットの保存ディレクトリのパス名

インターネット・ツールキット	保存ディレクトリのパス名
FastTrack サーバ	/opt/cmcluster/toolkit/fasttrack
Enterprise サーバ	/opt/cmcluster/toolkit/domain
Enterprise サーバ・プロ	/opt/cmcluster/toolkit/domain
Proxy サーバ	/opt/cmcluster/toolkit/domain
Directory サーバ	/opt/cmcluster/toolkit/domain
Messaging サーバ	/opt/cmcluster/toolkit/domain
Collabra サーバ	/opt/cmcluster/toolkit/domain
Calendar サーバ	/opt/cmcluster/toolkit/domain

各ツールキットに付属の `README` ファイルの説明に従って、パッケージを構成してください。

### データベース・ツールキットの保存場所

データベース・ツールキットは以下のディレクトリにあります。

表 1-6 データベース・ツールキット保存ディレクトリのパス名

データベース・ツールキット	保存ディレクトリのパス名
Informix	/opt/cmcluster/toolkit/informix
Oracle	/opt/cmcluster/toolkit/oracle
Oracle Standby	/opt/cmcluster/toolkit/SGOSB
Sybase	/opt/cmcluster/toolkit/sybase
Progress	/opt/cmcluster/toolkit/progress

各ツールキットに付属の README ファイルの説明に従って、パッケージを構成してください。

### 本バージョンで利用可能なマニュアル

ツールキットを使用してパッケージを構成する方法については、以下のマニュアルをご覧ください。また、使用するツールキットに付属の README ファイルも必ずお読みください。

- 『MC/ServiceGuard の管理』
- 『ServiceGuard OPS Edition による OPS クラスターの設定』

Domain サーバをお使いの場合は、上記の製品に関する最新の変更、確認されている問題とその回避策について、『HP Domain Release Notes on HP-UX 10.20』(J1582-90112) または 『HP Domain Release Notes on HP-UX 11.0』(J1582-90128) をご覧ください。

Foundation Monitor ツールキットに関しては、ホワイト・ペーパー “Installing and Configuring the Foundation Monitor Toolkit” が、次のドキュメント関連の Web サイトから入手できます。

<http://docs.hp.com/hpux/ha>

## このバージョンでの修正点

このバージョンには、パッチはありません。

### 修正点

ECM ツールキット・バージョン B.01.06 では、次の問題が修正されています。

障害番号	問題と解決策
JAGad388699	<p><b>問題</b> : swinstall が、Foundation Monitor 製品用ディレクトリのパーミッションを誤った状態にしていました。 /opt/cmcluster/toolkit/foundation というディレクトリに、777 のパーミッションが設定されていました。</p> <p><b>解決策</b> : インストール処理が修正されて、 /opt/cmcluster/toolkit/foundation にパーミッションが正しく設定されるようになりました (所有者が bin、グループが bin、パーミッションが 555)。</p>

## 既知の問題と回避策

以下の各項では、Enterprise Cluster マスター・ツールキットについて確認されている問題と、その回避策を説明します。

Domain サーバをお使いの場合は、『*HP Domain Release Notes on HP-UX 10.20*』(J1582-90112) または 『*HP Domain Release Notes on HP-UX 11.0*』(J1582-90128) も併せてご覧ください。

### Netscape サーバ・インスタンスの命名

- **問題**

同じ種類の Netscape サーバの複数のインスタンスを構成し、あるサーバのサーバ ID (ServerID) が別のサーバのサーバ ID (ServerID) の部分文字列になっている場合に、ServiceGuard が別のパッケージを誤って終了させてしまうことがあります。

- **回避策**

以下の例に示すように、他と重複しない独自のインスタンス名を選んでください。

```
ServerID1: httpd-default1
ServerID2: httpd-default2
```

この場合に、ServerID1 に httpd-default、ServerID2 に httpd-default1 のようには指定しないでください。

### Enterprise サーバ (バージョン 3.6) で変更されたインストール・ディレクトリとポート設定

- **問題**

Netscape Enterprise サーバ (バージョン 3.6) で、インストール・ディレクトリとポート設定が変更されています。

- **回避策**

runhalt コマンド用のスクリプト enterprise.sh (バージョン B.01.02) の 51 行目で、環境変数 SERVER を以下のように変更して、新しいインストール・ディレクトリを指定してください。

```
SERVER=/opt/ns-enterprise36/https-${SERVER_ID}
```

Enterprise サーバ・バージョン 3.6 の管理用サーバにアクセスする場合は、ポート 17493 を使用してください。例えばブラウザでは、以下の URL を使用します。

```
http://192.1.1.3:17493
```

上記の URL で、192.1.1.3 は、管理用サーバを実行しているシステムの IP アドレ

スです。

## uxwdog 監視プロセスが実行できない

- **問題**

Enterprise サーバ・バージョン 3.6 では、ウェブ・サーバ・デーモン `https-<InstanceName>` が正しく実行されているかどうかを UNIX の `uxwdog` デーモンが監視しています (`InstanceName` はサーバ・インスタンスの名前、デフォルト・デーモンの名前は `https-default`)。

ウェブ・サーバ・プロセスが終了すると、`uxwdog` デーモンはウェブ・サーバ・デーモンを自動的に再起動します。問題は、ウェブ・サーバがまだ実行されているときに `uxwdog` デーモンが終了すると、管理用サーバを使用してウェブ・サーバの停止や起動ができなくなることです (この問題は、`kill -9 <PID>` コマンドを使用した場合にも発生します。ここで、`<PID>` は `uxwdog` デーモンのプロセス ID)。さらに `uxwdog` デーモンを監視しているツールキットがパッケージを引き継ぎノードへフェイルオーバーさせますが、引き継ぎノード上でパッケージが正しく実行されません。

- **回避策**

`uxwdog` デーモンが実行されない場合は、次のコマンドにより、ウェブ・サーバ・プロセスを手動で抹消してください。

```
kill -9 <PID>
```

上記のコマンドで、`<PID>` はウェブ・サーバ・プロセスのプロセス ID です。これにより、管理用サーバの制御を通じてウェブ・サーバを起動できます。

## 各言語でのソフトウェア使用の可否

Enterprise Cluster マスター・ツールキットは日本語をサポートしていません。ただし、製品 B5139 の次のオプションで、各国語のドキュメントが付属しています。

- ABA: 英語
- ABJ: 日本語